

## ～コンコードを訪問して～

七飯町住民課長 岡田 潔

10月1日から11日間の日程で行われた、今回が19回目となる姉妹提携都市コンコードへの訪問には、中学生5人、高校生3人、町民からの参加3名、引率教員1名、役場からは国際交流員1名と私の総勢14名が、コンコードの皆さんとの交流を通じ、アメリカの生活や文化を体験してきました。

初めての海外に不安もありましたが、4回に渡る事前研修を経て、両町の歴史や、簡単な英会話などを学び準備は万端。函館空港を10月1日に出発した訪問団一行は、成田で一泊して、翌2日、午前11時20分発ボストン行きのJAL直行便に乗り込みました。

機内は思ったより快適で、予定通り13時間後（現地時間は2日の午前11時05分）にボストン・ローガン空港に到着しました。入国手続きを全員が終えるまで3時間以上かかるというハプニングもありましたが、私たち一行を迎えに来てくださったCCNNのトムさんとジュンコさんにお会いし、「アメリカに来た！」という実感が湧いてきました。



ボストン・ローガン空港に到着

空港からコンコードまでは迎えのスクールバスで約40分のドライブです。道行く車は当然アメリカ車やドイツ車でしょう、と思っていたら、日本車が思いのほか多く、少しイメージが違ふと感ながらも車窓からの広々とした風景に「これがアメリカかァ」と、時差ぼけも忘れ気持ちは高ぶりました。

コンコードには信号機が少ないということを知っていましたが、確かに町の中心地に近づいても信号機が見当たらず、これで交通渋滞や事故は起きないのかなと思っていたら、このスクールバスの何台か先の乗用車が横断歩道の手前で止まって、歩行者を渡してから再び走り出したり、また、交差点では他の車の様子を見て止まり譲り合いながら進入するなど、運転マナーの良さに感心しました。

カーライル高校には午後3時過ぎに到着し、ここで、大人達は中高生と別れて、コンコード町の中心部にあるファーストパリッシュ教会の庭で、CCNNの皆さんとピザを囲み歓談しました。一切れのサイズが顔の大きさ位ありそうなピザに、少し戸惑いながらも三切れを完食しお腹はいっぱいになり、アメリカに着いて最初の食事を美味しくいただきました。

私がホームステイさせていただいたのはカーグラ家で、ジュンコさんのところ。渡会さんと一緒にお世話になりました。ご主人のマイケルさんが風邪をこじらせ体調が良くないところにお邪魔し、大変申し訳ないという気持ちでしたが、お二人の心遣いにすっかり甘えて、快適なホームステイを楽しませていただき、大変感謝しております。滞在中には、以前、七飯町で国際交流員として活躍し現在はハワイに住んでいる、ご夫妻の息子さんのポビー君から電話があり、近況などを話しました。



マイケルさんとジュンコさん

コンコードは北緯42度に位置し、七飯町の大沼と同じような気候ですが、カーグラ家周辺は、ちょうど大沼を思わせるような自然環境が広がっていて、庭先をリスが走って行くのを見かけました。時には狸やスカンクなども来るそうです。それと何よりも驚いたのは、すぐ近くの大きな沼です。以前は丘陵の谷間を流れる小川だったそうで、20年ほど前にビーバーがダムを造

り住み着いて、この沼が出来たとのこと。ビーバーの姿は見れませんでした。毎朝、沼からはガンの鳴き声がいい感じに響いていました。

翌3日は、町の事務を担当する課長のパトリシア・クリフォードさんから、コンコードの実施事業や予算の決定方法など、行政の仕組みについての説明を聞き、また、日本では全国民が必ず入っている医療保険制度のことなども話題に上るなど、質問を交えながらの懇談となりました。この後、お昼には、カーライル高校で昼食会を開いていただき、ピーター・バダラメント校長先生やダイアナ・リグビー教育長、CCNNの皆さんの歓迎を受けました。

午後からは、全員でオーチャードハウスを見学。昨年11月に七飯町で若草物語的一幕を演じ町民と交流した館長のジャン・ターンクイストさんと通訳のミルズ喜久子さんに迎えられ、劇を披露していただきました。オーチャードハウスは若草物語の舞台となった所で、作者のルイザ・メイ・オルコット

消防服を着用する笹村さん



若草物語的一幕を披露するジャンさん

と家族が暮らした家。当時の生活の様子をそのまま残しているそうです。

翌4日は、消防署とエマー

ソン病院を見学。消防署では施設や業務の概要説明のあと、実際に使用している消防服を伊藤さんと笹村さんが着用しましたが、二人は七飯町の消防団員ということもあり、勇ましい消防服が大変似合っていました。また、エマーソン病院では、現在増築中で完成間近の病棟を案内していただき、最新設備の整った病室などを見学しました。なお、この病院にはヘリポートがあり、都会の大きな病院への緊急搬送が可能です。

この後、ミニットマンの像があるオールドノースブリッジの見学や、また、夏は泳ぐ人で賑うというウォールデン湖と周辺を散策しました。穏やかな水面に写る紅葉が綺麗でしたが、湖の中ほどを、数人が楽しそうに泳いでいて、一瞬目を疑いました。翌5日は、日中をショッピングなどで過ごしたあと、夕方6時からカーライル高校で姉妹都市交流パーティーが行われ、迎えていただいたコンコード町の皆さんと楽しいひと時を過ごしました。特に、恒例



CCHS カフェテリアでのパーティー

となっているイカ踊りは大変盛り上がりましたが、この時、初めてイカ踊りの教則用DVDの存在を知りました。脚本とキャスティングの良さが光ったDVDは七飯町職員の手作りで、中高生にも受けていました。一見の価値はあります。

翌6日の日曜日は、ホストファミリーの一人のウィンさんのお誘いで、教会（トリニティーエписコパル教会）のミサに初めて参加しましたが、映

画のようなシーンが次々と展開していく様は、まるで中世の時代にタイムスリップしたかのようで、幻想的な雰囲気には圧倒されました。

ボストン市内の見学は、7日と8日の2日間で、ボストンレッドソックスのホーム球場やケネディ大統領の生家、ボストンマラソンのゴール地点、クインシーマーケット、ハーバード大学、マサチューセツ工科大学、また、観光船やダッグボートでの海からのボストンなどを見てまわりました。

今回の海外交流研修を通じ、広大なアメリカの中の極一部とはいえ、実際に見て感じる事ができたことで、海外に対する思いが少し変わりました。今ま



MLB ボストン・レッドソックスの  
ホーム球場（フェンウェイパーク）

では、海外に多少興味はありましたが、言葉が通じない外国に行くことなど考えたことはありませんでした。それが、今回の経験を通じ、自分の中の海外旅行に対する壁が少し低くなった気がします。

中高生の皆さんも今回の海外研修を通じて、言葉や習慣の違いに戸惑うことも多かったでしょうし、特に、自分の考えを相手に伝える難しさを学んだと思います。でも、海外に興味があり交流研修に参加した皆さんですから、今以上に英語を学んで、自分の可能性や世界を広げて行って欲しいと思います。それと、お世話になったホームステイファミリーには、短くても良いから時々Eメールを出して交流を続けて欲しいと思います。

訪問中、毎日朝早くから夜遅くまでお世話くださいましたCCNNをはじめコンコードの皆様には、いつも温かく迎えていただき親切に接していただいたことに、心より感謝しております。また、この度の訪問に当り、様々な形でご協力くださいました各中学校並びに七飯高校、保護者そして関係者の皆様に厚くお礼申し上げまして、今回の研修の報告とさせていただきます。